



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟  
編集・発行人 中山義治  
東京都中央区林友ビル6階  
〒112-0004 電話 03(3818)2906  
FAX 03(3818)2907  
毎月1回1日発行  
定価・年 3,000円  
(会員は会費に含まれています。)

### 第41回JAS製材品普及推進展示会 四社に農林水産大臣賞

ホテルグランドヒル市ヶ谷  
全市連と全木連、全買連は、第41回JAS製材品普及推進展示会の表彰式・記念講演会を開催した。出席は、富田文一郎審査委員長（日本木材加工技術協会会長）、吉条良明全木連会長、市川英治全市連会長ほか三団体の役員、受賞関係者など。

また来賓として、農林水産省表示・規格課の國井聡（くにいさとし）課長、同池田秀明課長補佐、同大村敏幸係長、林野庁木材産業課の飛山龍一（とびやま りゅういち）課長、農林水産消費安全技術センター、農林水産漁業振興会等の関係者多数のご出席を頂いた。



全木連の吉条会長は、主催三団体を代表し挨拶、「本年度の展示会は、消費税増税や木材利用ポイント事業に伴い、国産材の需給がタイトな時期と重なり、例年になく繁忙のなかで、ご協力を頂き、深く感謝申し上げます」と謝意を述べた。

また四月からの消費税増税に関して、「住宅着工数や木材利用の落ち込みが懸念されるが、政府の好循環実現のための経済対策の効果や業界の自助努力により、林業・木材産業でも好循環が図られることを期待したい」と語った。木材業界にとり最重要課題となっている木材利用拡大活動については、「住宅、商工業施設、公共建築物等への木材利用が一層進むよう、行政のご指導を頂きながら、業界あげて取り組むことが不可欠」と強調。そのためにも、「消費者・需要者が安心して使って頂ける製品供給すなわち品質性能・強度を担保したJAS製材品の供給拡大が大事だが、供給体制は、マーケットの要請には十分応えられる状況にない。この展示会等を通じて、今後ともJAS製材品の普及及び供給体制整備に努力して参りたいので、引き続きのご協力をお願いしたい」と要請した。

さらに、JAS製材品の審査、制度運営等にご尽力頂いた富田文一郎委員長に対する謝辞を述べた

#### 主な記事

- ・第41回JAS製材品普及展示会表彰式 4社に農林水産大臣賞
- ・平成25年度もくアド講習会
- ・第5回新たな木材利用事例発表会
- ・こんなところに木材利用

#### 【審査結果の講評】

富田委員長より、次のとおり審査の報告を頂いた。

- 1 製材品のJAS規格（天然乾燥材のJAS規格）が9月20日から発効したが、時間的なこともあり、本年度は、前年度までの考え方を基本に審査した。
- 2 出展工場数は61社（昨年77社）、出品量は、950.0m<sup>3</sup>（同1092.2m<sup>3</sup>）であり、出品社数の減少は、吉条会長挨拶のとおり、業界事情が影響したのではと感じる。

- 3 審査結果は、100点満点が13社（9社）、90点以上が30社（29社）とやや向上したが、100点満点が基本であり、引き続きご努力をお願いしたい。
- 4 6会場での審査結果をもとに、昨年未総合調整会議を開催し、農林水産大臣賞4点、消費・安全局長賞12件、林



吉条会長から、富田委員長に感謝状を贈呈

- 5 野庁長官賞16点を決定し推薦した。品等については、1級のものが2級とといったように、格付けを低位に決定し出品する実態や分切れ等があり、やや問題だと感じた。
- 6 今後、木造住宅の性能基準化、公共建築物等への木材利用が進めば、JAS規格の重要性が増すと思う。

#### 【感謝状の贈呈】

吉条会長より、富田委員長に対し、三団体会長感謝状を贈呈した。

#### 【表彰】

國井課長に農林水産大臣賞と消費・安全局長賞を贈呈して頂き、飛山課長に林野庁長官賞の贈呈をお願いした。

また主催団体賞は、吉条会長が贈呈し、優良開催市場への感謝状は、市川会長が贈呈した。（受賞者は、別掲のとおり）



國井課長が農林水産大臣賞を贈呈

#### 【来賓祝辞】

國井課長は、受章者への祝意と三団体への謝意を述べるとともに、林産物のJAS製材規格の見直しについて、次の通り語った。

昨年12月20日付で、CLT（直交集成材）のJAS規格を制定したが、林産物関係では20年ぶりの規格制定といえる。

今後中高層の建築物への木材利用促進につながることを期待する。

また枠組構造用製材等のJAS規格についても、昨年から改正に向けた検討を開始しているが、これまで国産材利用が少なかった2×4材の分野で、スギ、ヒノキ、カラマツなどの利用促進につながる見直しを予定している。引き続き、JAS制度の適正な推進とJAS材の安定供給にご協力頂きたい。



飛山課長が林野庁長官賞を贈呈

また飛山課長は、「国産材資源は充実し、ここ一年の生産量も1割ほど増加している。

昨年暮れには農林水産省として、農林水産地域活力創造プランを策定した。このなかで林業を成長産業にしようというところで、木材利用ポイント事業の継続、公共建築物等への木材利用の推進、CILT等新技術の開発普及など各種の取り組みを行っている。これらの推進にはJAS材が欠かせないと考えており、品質の優れた製品の供給をお願いしたい」と語った。

このあと、受章者を代表して、山下木材株式会社山下 豊社長が謝辞を述べ、表彰式を終えた。

【農林水産大臣賞】( ) は県名

(有) 倉地製材所(岐阜)、山下木材(株)、牧野木材工業(株)(以上、岡山)、(株)佐藤林業(熊本)

【消費・安全局長】

(有) 菊池製材所(岩手)、(株)香澤製材所(秋田)、中国木材(株)鹿島工場(茨城)、金子製材(株)(埼玉)、伊藤林産(有)、飛騨高山森林組合、(株)丸七ヒダ川ウッド、交告製材(株)、東濃ひのき製品流通(協)(以上、岐阜)、久万広域森林組合(愛媛)、グリーンウッドタクミ(協)、ウッドピア流通検査(協)(以上、三重)

【林野庁長官】(株)一戸製材所(岩手)、共

力(株)(福島)、ウッドリンク(株)(富山)、(株)鈴鹿製材所、(有) 須田製材所、小林製材(株)、(有) 山洪木材、(株)丸左木材(以上、岡山)、宮迫木材(株)(広島)、大林産業(株)(山口)、小牧木材(株)、斉藤木材(有)(以上、三重)、(株)日田十条(大分)、熊本モルダー加工事業(協)、(株)松島木材センター、(有) 三和物産(以上、熊本)

【主催三団体会長特別】協和木材(株)(福島)、

院庄林業(株)、銘建工業(株)(以上、岡山)、(株)オオコーチ(三重)

【優良市場】東京木材市場(株)(東京)、(株)

東海木材相互市場大口市場(愛知)、(株)津山綜合木材市場(岡山)、熊本木材(株)(熊本)

【全木連会長】東北木材(株)(秋田)、(有)

森製材所(岐阜)、(株)瓜守材木店(愛媛)、外山木材(株)、木脇産業(株)(以上、宮崎)

【全市連会長】(株)東海木材相互市場(愛知)、

(株)トーホー(有)(岐阜)、太平製材所(岡山)、八幡浜管材協同組合製材工場(愛媛)、耳川林業事業協同組合(宮崎)

【全責連会長】東白川製材(協)(岐阜)、

セイキ林業(株)、河井林産(株)(以上、岡山)、立山製材所、ランバーやまと協同組合(以上、熊本)、持永木材(宮崎)

【優良買い方】日青木材(株)(東京)、笠井

木材(埼玉)、逢坂建材(株)(岐阜)、森田産業(三重)、須山木材(株)(島根)、原田木材(熊本)

【記念講演会】

表彰式終了後、東海大学の杉本洋文教授に、「中・大規模木造建築の動向と課題」と題して講演した。杉本教授は、「計画・環境建築代表取締役会長としても活躍中。日本グッドデザイン賞2011を受賞したほか、「木造建築のデザインを考える」「木造の復権に向けた現況と課題」など著述が多い。講演会では、建築家としての視点から、日本の森林・林業の現状と課題について問題提起を行うとともに、木材、木造建築の特性を踏まえ、都市圏において木造建築を普及させる仕組みや法整備、人材育成など、幅広い課題について語った。

### 平成25年度「もくアド講習会」

大雪予報の中、予定どおり開催

当連盟は、2月7〜8日東京会場の木材・合板博物館(東京都江東区新木場)と同14日〜15日大阪木材仲買会館(大阪市西区南堀江)で、平成25年度木材アドバイザー養成講習会を開催した。参加者は、当初申込みよりやや減少し74名(東京40名、大阪34名)。

これまで東京会場では、「募集即定数オーバー」であったが、今年は応募が減り、両会場とも定数割れとなった。一部

には、「昨年から仕事が忙しく、講習会に社員を派遣する時間がない」との声が聞かれた。

また東京会場、大阪会場ともに大雪の予報が出され、実施が危ぶまれる場面もあったが、受講者及び講師陣、当連盟関係者のご協力により、ほぼ予定どおり実施できた。4年目を迎え今年も、より実践的な知識を身につけて頂くため、新たに「建築が木材に期待すること」を加え実施した。

木材・合板博物館での講習会は4年目、昨年完成した大阪木材仲買会館では初の開催であった。関係各位のご協力に心より感謝申し上げる。

【東京会場】



市川会長が開講式で挨拶

東京会場では、当連盟の市川会長が挨拶、講習会について、「この講習会は、木材や木材利用の助言・指導ができる人材を養成し、木材アドバイザーとして認定し、その方々の活動により、広く森林や木材、木造建築の良さを建築関係者や一般国民の皆さんに伝えて頂くこと、全日本木材市場連盟がスタートさせた」と話し、また「企画運営は、森林・林業、木材、建築などの分野で、それぞれ第一

人者の先生方のご協力を頂いている、引き続き制度の一層の充実等に向け努力したい」と結んだ。



続いて、林野庁木材産業課の高橋大輔係長が挨拶し、最近の農林水産業の展開を目指す農林水産省の取り組みのなかで、林業を成長産業にするため、各種取り組みが行われていることを紹介。受講者は日頃、林野行政について話を聴く機会が少ないだけに、大変参考になる内容であった。また、我が国の森林の所有構造を踏まえ、品質・量・価格の安定した国産材の供給体制づくりのための取り組みや、2020年開催予定のオリンピック・パラリンピック関連施設への木材利用に力を入れていることを紹介し、「これらの施策の実効性確保のためにも、受講者の皆さんには、ご協力を頂きたい」と結んだ。



挨拶する岡野館長

「講習会で、きちんとした木材の知識を身につければ、皆さんもこうした問い合わせに、筋道をたてて答えを導きだすことができるようになる。しっかりと勉強して頂きたい」と語った。

【大阪会場】

このあと、事務局が全市連の活動や木材アドバイザー養成の仕組み等について紹介し、開校式を終えた。

大阪会場では、全市連の花尻忠夫副会長（近畿支部長、関西木材相互市場社長）は、主催者挨拶の中で、「日本は、世界第2位の森林国であり、豊かな森林資源は有効活用しなければならぬ。国民の8割は、木造住宅を希望しているが、一般的に木材は高いという認識が広がっている。暮れからの値戻しはあるが、現在の木材価格を昭和55年に比べれば65%値下がりしており、持続可能な森林経営ができない状況にある。本日も参加頂いている皆さんは、こうした現状を国民の皆さんに広く伝えて頂き、国産材が多量に使用されるよう取り組みを進めて頂きたい」と話した。



挨拶する花尻副会長

講師と教科名は、早稲田大学の森川靖教授「地球環境保全と森林・木材利用」、鹿児島大学・遠藤日雄教授（東京会場は、日本治山治水協会の山田寿夫専務理事）《元林野庁木材課長》「木材需給の動向と木材産業」、林材ライター「赤堀楠雄氏」《日本林業の動向と課題》、木材・合板博物館の岡野健館長（東京大学名誉教授）「木材の構造と性質」、京都大学生存圏研究所の杉山淳司教授「ハンドレンズによる木材の見分け方」、東京都市大学の「大橋好光教授」《木造住宅・木造建築の知識と科学》、A/E WORKS 栗田紀之理事「木材に対する建築側の期待」。

【写真で見る講習会の模様】

（東京会場は、雪に見舞われ写真が少ない結果となった）



「環境問題は正しい理解が大切」と森川教授（大阪会場）



「国産材の付加価値の向上が大切」と赤堀さん（大阪会場）



「いま日本の林業は大きな岐路にたっている」と遠藤教授（大阪会場）



木材の性質、マツ科とヒノキ科の木材の耐朽性の違いなどを講義する岡野館長（東京会場）



ハンドレンズによる木材の見分け方を講義する杉山教授（大阪会場）



真剣な表情で、講義を聴く受講者（大阪会場）



「2000年の法改正で木造耐火建築物が可能になった」と栗田理事（東京会場）



「風圧力は、風速の2乗に比例する」と大橋教授

**こんなところも木材利用**

全木連（吉条良明会長）と木材利用推進協議会は13日（木）、「こんなところも木材利用」をテーマに木材会館（東京）・新木場で第5回新たな木材利用事例発表会を開催した。吉条会長は、「全国の先駆的な取り組みを発表して頂き、木材の使い方、施工・設計、新製品開発の工夫などを参考にして、大いに木材利用を促進したい。五回目の今年は、街角の木材利用や大規模商業施設、福祉施設、ビル内・外装の事例を発表して頂く」と挨拶した。



「画期的な木造建築のため、内外の見学者が多い」と雪本理事長



【大阪木材仲買会館】

国内初の耐火木造オフィスビルで都市部での木造ビルのモデルプロジェクトを目指す。2、3階の架構に3層構造の耐火集成材「燃エンウッド」を使用。

第5回新たな木材利用事例発表会を開催

第1部では、街角等における木材利用として、埼玉県秩父消防署の小林幸一総務課主幹による「消防署の木造化」、京都銀行本店総務部の近藤晃朗管財室長「地域都市の店舗（銀行）の木材利用」、鹿島建設(株)建築設計本部の小川浩GM「都心の耐火木造と大規模木造建築の取り組み」、(株)NNTファシリテーズ関西事業部の牛垣和正統括室長「太陽光発電用木製架台の現状」、(一社)大阪府木材連合会の三宅英隆専務理事「間伐材利用で地震に強い街づくり」、三井ホーム(株)技術企画部の原康之氏「ビル集積地（銀座）の中高層建物木造化―5階建ツバアイフォア耐火建築」の報告が行われた。第2部では、森林総合研究所の木口実研究コーディネータが木材を使った街づくりの事例調査結果を報告した。

○お知らせ  
映画『WOODJOB〜神去なあなあ日常〜』が5月10日から公開予定。  
【訂正】2月号4頁3段11行目の7mは7cmの誤りでした。訂正してお詫びします。



挨拶する吉条会長

雑 記 帳

既報のとおり、木材利用ポイント事業は、平成25年度補正で予算追加が行われ、対象工事の着手期間は今年9月30日まで延長された（新規外壁材は、これまで通り3月31日まで）。これに伴い木材利用ポイント発行申請受付期間は、（予算がある限り）平成27年1月31日に延長される▽当連盟は、東京木材市場協会として申請受付等を行っており、最近ようやく申請件数が増加してきた。今回の延長で、少しでも受付処理件数が増えることを期待している。▽また木材利用ポイント発行の対象となる木造住宅の対象工法に、北海道の「カラマツ等を主要構造材等として過半使用する木質レハブ工法」が追加され、さらに木造住宅の主要構造材等として、構造用合板に類するひき板又は小角材（同等以上の壁倍率等を有することが指定性能評価機関等により確認されたもの）に使用される対象地域材も使用量に含めることになった（4月1日以降に着手する工事で使用されるもの）ほか、ポイント対象の内装・外装木質化工事に「天井」が追加された▽今回の変更では、「ベイマツ（米国産）」も4月1日から対象地域材として扱われる。ベイマツ使用の工法は、事業者等による都道府県地域協議会への申請、基金管理委員会の審議・認定などの手続きを要し、現在手続きが進められている。▽ベイマツ使用の工法認定地域等の不明点等については分かり次第情報連絡する。詳細は林野庁HP（当連盟のHP）の木材利用ポイントの頁参照のこと。

（中山）